

# 江成 常夫 TSuneo Enari: Japanese War Bride in California 1978-1998

## 花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978—1998

令和元年 8 月 10 日 | 土 | — 9 月 1 日 | 日 |



《娘パトリアのウェディング  
セレモニー》1998 年

相模原市民ギャラリーでは、令和最初の収蔵美術品展として「江成常夫 花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978—1998」展を開催いたします。

第二次世界大戦後の 1950 年代、多くの日本人女性が進駐軍の関係者と結婚し、その後海を渡っていきました。“戦争花嫁”と呼ばれた彼女たちは、過酷な経済状況や人種差別、同じ日本人からの蔑視といった様々な困難に遭いながらも強く、そして美しく生きていきました。

そんな彼女たちの姿を写し言葉に耳を傾けた作品が、本市出身の写真家・江成常夫による《花嫁のアメリカ》(1980)です。戦中、戦後を生きた彼女たちの姿と言葉は微に入り細を穿ち、歴史に血を通わせ熱を与える戦後史の裏打ちと呼べるものとなりました。花嫁たちを撮影してから 20 年後の 90 年代後半、江成は再び花嫁たちのもとを訪れます。離別や新たな出会い、子から孫へと受け継がれていく新たなアイデンティティ。そこで撮られた写真には、更に豊かな花嫁たちの実りがうつされ、《花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978—1998》(2000)としてまとめられました。

相模原市は、平成 21 (2009) 年に本作の寄贈を受け市の美術品として収蔵しました。本展では、新しい年号を迎えた今日、それらを改めて紹介するものです。戦争の時代であった昭和を生き、平成の時代にかけて受け継がれてきた花嫁たちの姿と言葉を令和の新しい時代に再度提示することで、国際社会や歴史、家族の在り方を問い直す機会となれば幸いです。

## 出品作品（一部）



《サエコ・ウィラー》1979年



《サエコ・ウィラー》1998年



《ナオミ・キャンベル》1979年



《ナオミ・キャンベル》1998年

## みどころ

### 花嫁たちのから浮かび上がる戦後の日本とアメリカ

本作ではまず最初に、78年から79年にかけて50年代を中心に進駐軍関係者と結ばれ渡米した戦争花嫁たちが撮影されました。彼女たちが過ごした戦後の日本、そしてアメリカでの20数年はどのようなものだったのか。彼女たちとその家族、暮らしている部屋、そして丹念なインタビューにより引き出された回想により、テキストとイメージが拮抗し、個人の物語が戦後史のディテールを補強します。

### 花嫁とその家族—受け継がれるアイデンティティ

花嫁たちを再訪した97年から98年。そこには、20年前とは違った景色が広がっていました。花嫁の子どもたちが大人になり、孫に囲まれるかつての花嫁たち。連綿と受け継がれる彼女たちの日系人としてのアイデンティティがある一方で、既に亡くなり日本の墓に入るという形で帰国した花嫁もいればアメリカ人として埋葬された花嫁もありました。生まれた国、最期を過ごした国、自分は何者であったのか。彼女たちの人生と家族の姿は、国際化が進む今日を生きる私達に色あせない問いを投げかけます。

# 開催概要

展覧会名 | 相模原市収蔵美術品展「江成常夫 花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978—1998」

会 期 | 2019年8月10日（土）—9月1日（日）

会 場 | 相模原市民ギャラリー 展示室 〒252-0032 相模原市中央区相模原 1-1-3 セレオ相模原 4階

開場時間 | 10:00—18:00（水曜休館）

主 催 | 相模原市（相模原市民ギャラリー）

後 援 | 相模経済新聞社／株式会社タウンニュース相模原支社／エフエムさがみ（FM HOT839）

協 力 | 株式会社ジェイコム湘南・神奈川／神奈川中央交通株式会社／フォトシティさがみはらサポーターズクラブ／相鑑舎／株式会社フレームマン／株式会社写真弘社／セレオ相模原／相模原イツ（敬省略）

## 関連イベント

### 江成常夫ギャラリートーク

作家自らによる作品の解説や撮影時のエピソードを語ってまいります。

日時 | 8月10日（土）15:00—16:30

会場 | 相模原市民ギャラリー展示室

申込不要（直接会場へお越しください）

### 対談 江成常夫 × 伊藤俊治（美術史家・東京藝術大学教授）

本展出品作を通し、写真による歴史記述や記録を巡るトークを行います。

日時 | 8月18日（日）15:00—16:30

会場 | 相模原市民ギャラリー展示室

申込不要（直接会場へお越しください）

### 映画『七転び八起き アメリカへ渡った戦争花嫁物語』上映

戦争花嫁の娘が撮影したドキュメンタリー映画。母へのインタビューをもとに、親子のアイデンティティや知られざる戦後の日米関係について迫ります。

作品 | 『七転び八起き アメリカへ渡った戦争花嫁物語』（2015）

監督：ルーシー・クラフト／ケレン・カズマウスキー／キャサリン・トールバート

時間：26分

日時 | 8月24日（土） 11:00—11:30 / 15:00—15:30（2回上映）

会場 | 相模原市民ギャラリー会議室

定員 | 40名（先着順）

料金 | 無料

## 事前内覧会

関係者および報道機関向けの事前内覧会を開催いたします（作家在廊）。また、内覧会後にフォトシティさがみはらサポーターズクラブ主催によるレセプションを開催いたします。

日時 | 2019年8月9日（金）16:00—18:00（事前内覧会）

18:00—19:30（レセプション）

# 作家略歴

江成 常夫（えなり つねお）

相模原市生まれ。相模原市在住。

1974年に毎日新聞社を退社後、フリーランスの写真家となる。以降、一貫して「負の昭和」をテーマに制作を続けている。また、「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」をはじめとした数々の写真賞の創設にも関わる。

## 主な受賞歴

- 1981年 第6回木村伊兵衛写真賞
- 1985年 第4回土門拳賞
- 1995年 第37回毎日芸術賞
- 2001年 第50回神奈川文化賞  
相模原市民文化表彰
- 2002年 紫綬褒章
- 2010年 旭日小綬章
- 2015年 酒田市特別功労表彰
- 2017年 日本写真協会賞功労賞

## 主な写真展

- 1976年 「家族ニューヨーク」新宿ニコンサロン／東京、大阪ニコンサロン／大阪
- 1981年 「花嫁のアメリカ」銀座ニコンサロン／神奈川、大阪ニコンサロン／大阪
- 1992年 「変容する家族の記録」東京都写真美術館／東京
- 1996年 「満州・ヒロシマ」福岡県立美術館／福岡
- 2000年 「昭和史の風景」東京都写真美術館／東京
- 2007年 「生と死の時」銀座ニコンサロン／東京、大阪ニコンサロン／大阪
- 2011年 「昭和史のかたち」東京都写真美術館／東京
- 2018年 「After The TSUNAMI—東日本大震災」相模原市民ギャラリー／神奈川、ポートレートギャラリー／東京
- 2019年 「被爆 ヒロシマ・ナガサキ」新宿ニコンサロン／東京、大阪ニコンサロン／大阪  
他多数

## 主な写真集・著作

- 1976年 写真集『ニューヨークの百家族』平凡社
- 1981年 単行本『花嫁のアメリカ』講談社
- 1984年 写真集『シャオハイの満州』集英社
- 1995年 写真集『まぼろし国・満州』新潮社  
単行本『記憶の光景・十人のヒロシマ』新潮社
- 2002年 写真集『ヒロシマ万象』新潮社
- 2005年 新書『レンズに映った昭和』集英社
- 2006年 写真集『生と死の時』平凡社
- 2011年 写真集『鬼哭の島』朝日新聞出版社
- 2016年 写真集『多摩川 1970-1974』平凡社
- 2019年 写真集『After the TSUNAMI—東日本大震災』冬青社
- 2019年 写真集『被爆 ヒロシマ・ナガサキ いのちの証』小学館  
他多数

問合せ先	相模原市民ギャラリー
電話	042-776-1262
担当	山田